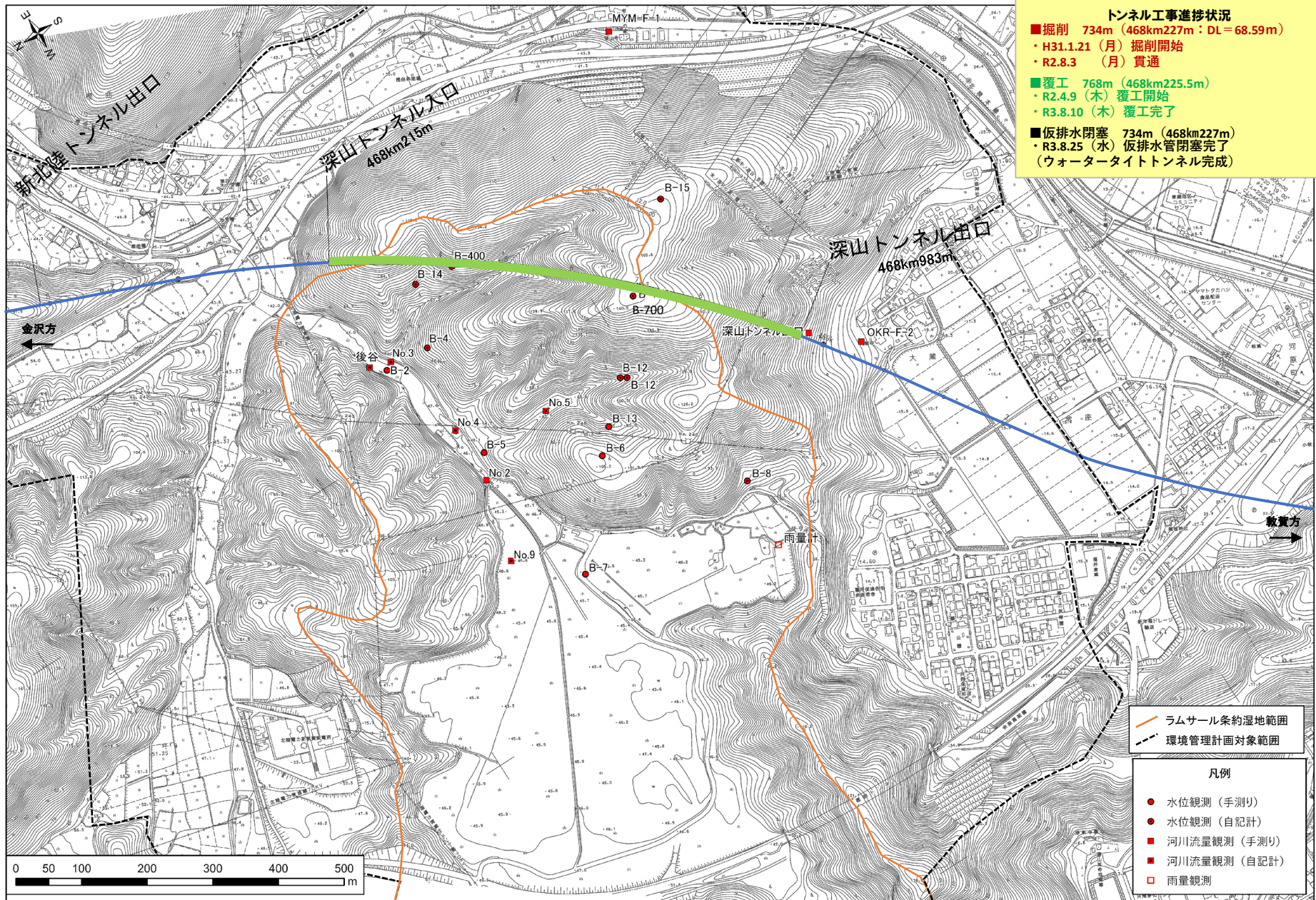


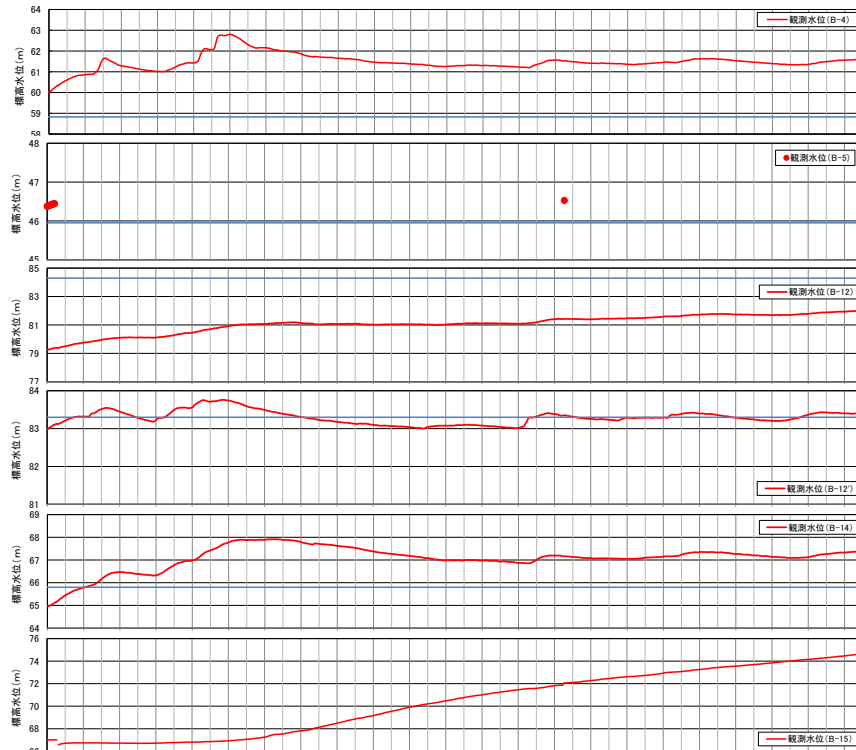
深山トンネル水文調査モニタリング報告書

調査期間：令和5年12月18日（月）～令和6年1月31日（水）

「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。



※主要箇所のみ抜粋 地下水位観測結果図（自記記録）



B-4 地下水位
過年度最低水位
58.8m

B-5 地下水位
過年度最低水位
46.0m

B-12 地下水位
過年度最低水位
84.3m

B-12' 地下水位
過年度最低水位
83.3m

B-14 地下水位
過年度最低水位
65.8m

B-15 地下水位

流量観測結果図（自記記録）



No.3 流量

No.5 流量

全体総括

■目立った変動なし □やや変動あり
□変動あり

期間中の地下水位低下量

■1m未満ないし増加：全箇所
□2m未満： □5m以上：

日降水量

□15mm未満 ■15mm以上（日） □50mm以上

月降水量

□80mm未満 □80mm以上 □130mm以上 ■200mm以上

概 要

■水位変動について

- ①目立った変動なし
- ②B-4（自記水位計）：期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。期間中の水位は概ね一定である。12月上旬の降雨により水位は過年度最低水位を上回っている。
- ③B-5（手測り）：水位変動はほぼ一定のため、本年から手計りに移行した。過年度最低水位を上回る状態が継続する。
- ④B-12（自記水位計）：なだらかに上昇傾向。過年度最低水位を下回っている状態が続くため、今後も注視していく。
- ⑤B-12'（自記水位計）：期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。過年度最低水位付近で変動しており、今後も注視していく。
- ⑥B-14（自記水位計）：不明瞭ながら降雨に反応し、やや上昇している。過年度最低水位を上回ったが、注視が必要である。
- ⑦B-15（自記水位計）：水位はなだらかに上昇している。

■流量変動について

- ①No.3（自記）：期間中の降水に明瞭な反応を示し流量は一時的に増加傾向を示す。期間を通して降雨がない時には流量がない状態が生じるが、1/28以降は流量の回復が確認される。
- ②No.5（自記）：期間中は0L/minの状態が続く。
⇒少雨や大雨の数日後の状況として、当該上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透することにより流量の計測値がゼロとなっている状況がある。
⇒観測地点での流量が一定の降水量（例えば時間降水量、連続降水量）の条件を超えた時に流量が確認されると推定される。

■降水量について

- ①11月の日最大降水量：11/30の29.0mmである。
⇒12～1月の日最大降水量：1/13の33.5mmである。
- ②12月の降水量：291.5mm、1月の降水量：201.5mmである。
昨年12月は348.5mm、1月は227.0mmである。
平年値（敦賀アメダス）は12月は316.7mm、1月は269.5mmである。